

あじかた

村だより

号外

1989

8月10日発行

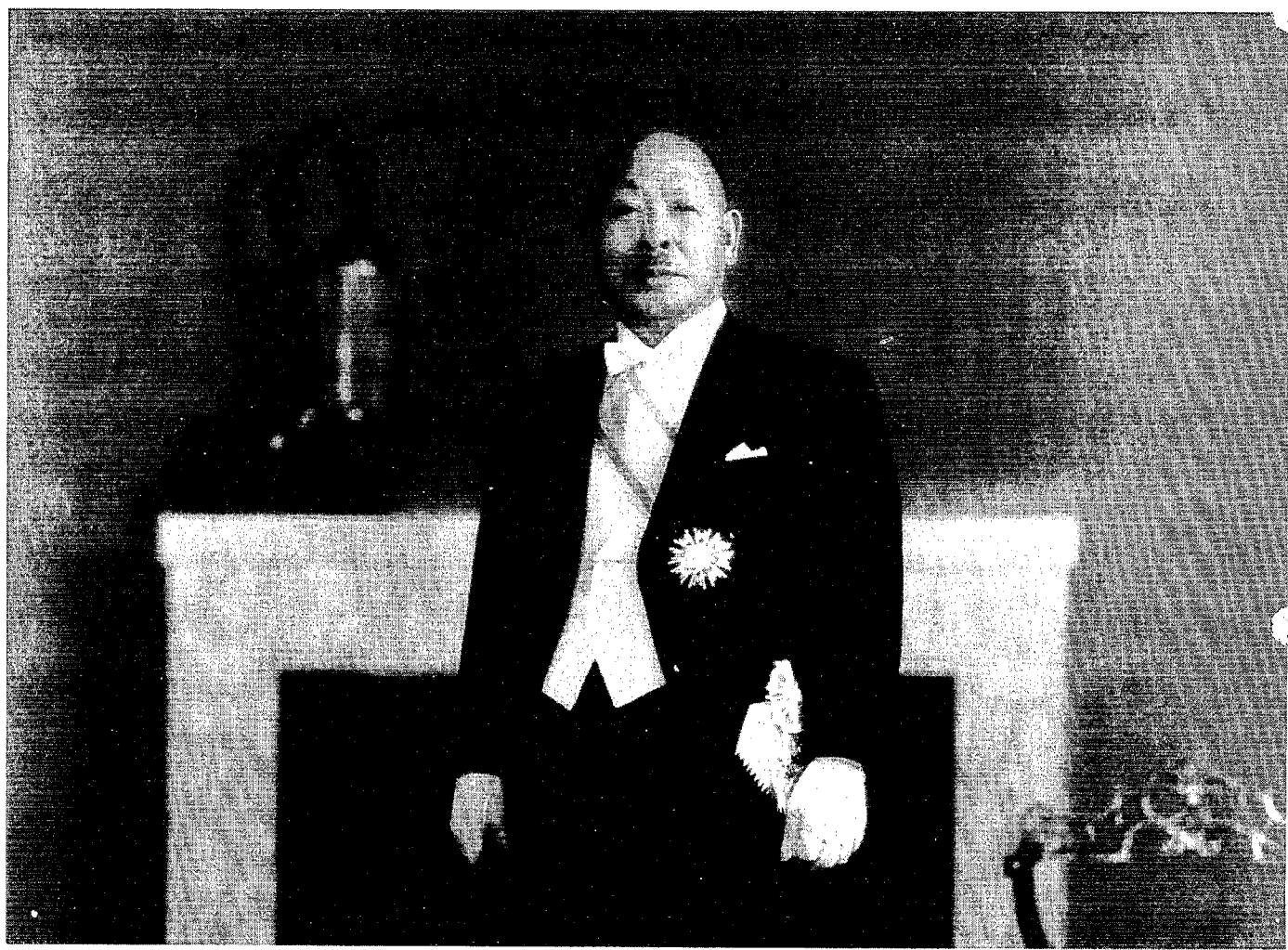
発行：味方村役場（025）372-1141（代）
〒950-12 新潟県西蒲原郡味方村大字味方685-2

毎月1回1日発行
編集：総務課企画室

印刷：（株）第一印刷所

名誉村民

故 平澤 興 先生ご逝去特集号



昭和45年11月勲一等瑞宝章を受章された際の記念写真（宮中で）

村だより、「あじかた」
七月一日号で、平澤先生の
死を悼み、皆様にお報らせ
しましたので重複すること
は、謹んで遠慮させてい
ただきます。

その後、平澤先生ご生前
中にご縁の深かった皆様方
からご理解とご協力を賜り、
村だよりの特集号をお届け
する運びとなりました。誠
に有難く心から厚く御礼を
申し上げます。

名譽村民 正三位 熱一

等瑞宝章 故平澤興先生が
ご急逝になられましてから
早や満中陰も過ぎ去りまし
た。

村長

薄田近衛

ごあいさつ

ここに、平澤興先生の偉
大なご功績を讃え、ご遺徳
を偲び、ご高恩に感謝申し
上げますとともに、郷里味
方村におよせを賜りました、
ご温情に報いる村づくりに
懸命努力したいと存んじま
す。

先生どうぞ、安らかにお
眠り下さい。

合掌

弔慰状

葬儀委員長(元京都大学総長)
岡本道雄

弔詞

よりだたかじ

このたび

平澤興殿

御逝去致され喪心哀悼に堪えず御一門の御愁歎また如何ばかりかと御推察申し上げます。ついては今般生前の功に対し特別の思召をもつて別紙目録の通りお扱いになりましたので慈に謹んで伝達いたし香一函を供えて敬弔の意を表します。

尚、御遺族の各位には今度の御不幸を機縁として深く人生無常のことわりを観じ念佛持誦するわしく人界受生の所詮を全うせられますよう切に希望する次第であります。

平成元年七月三日

浄土真宗本願寺派

総長 渡邊静波

すずめんと御遺族

院號

一、ご染筆院号法名御下附
一、院号御授与

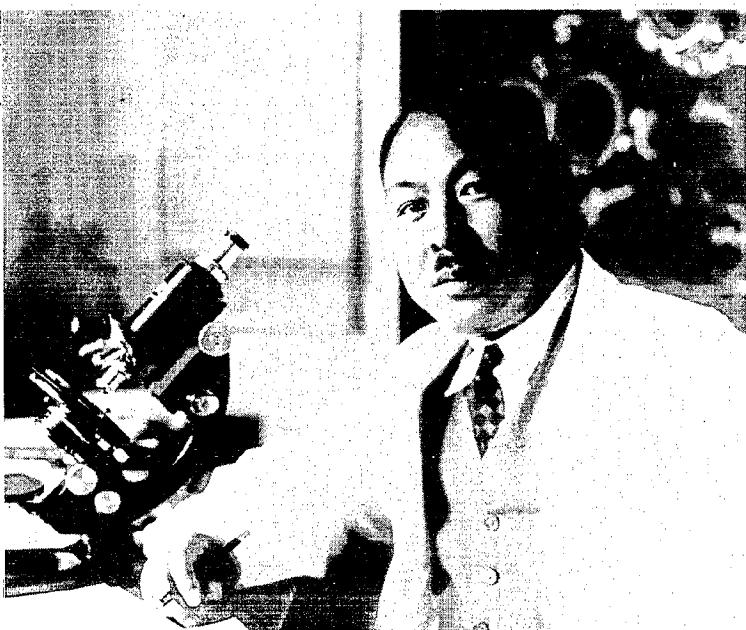
目録

一、生花

一、香

院號
本願寺
光顔院釋興法

号外



送られ、運動神経路のうち錐体路と共に随意運動を司る錐体外路系の神経路について詳細な実験的研究を重ねられ、その成果を一九三五年ドイツのモルフォロギッシュ・ヤールブッフに「広義における錐体路外運動系の新しい系統的分類の試み」と題して発表され世界で初めて錐体外路系を整理し五つの亜系に分類

されたのであります。当時の日本学界は勿論のこと欧米でもこの複雑な錐体外路系は十分理解されておらずその大業績を評価することは出来ませんでした

のを二年後イタリアのカスター教授が国際学会の席上日本平沢教授の偉大な研究として賞賛したことは少壯の研究者であつた先生が如何程喜ばれた

が私共もよくそのお話を承つたのでありました。このご研究は後になって昭和二十六年東京大学の小川鼎三先生と共に学士院賞に輝かれ後、学士院会員に列せられるもと、なっています。その様にして新潟において研究一途の生活を送つておられた先生は突如として戦争の影響もあって、京都大学の解剖教室の教授が

一人もないという状況であつた昭和二十一年、当時の鳥養総長のたつての懇請もあつて母校京都大学に帰られたのであります。

京都大学にお帰りになつてから先生は木原卓三郎先生の復帰、堀井五十雄先生の御就任と共に京大解剖学教室の再建を進められました。しかし先生のまことに見る偉大なお人柄は早くも全学の注目するところとなり翌十二年には医学部附属医専の校長、二十五年には吉田分校の主事今教養部長、三十一年医学部長として翌年昭和三十二年十二月十六日京都大学第十六代総長に就任されました。折しも昭和二十六年は安保条約の改訂でデモ隊の国会構内突入があり二十七年には大学管理法案改正の企もあり京都大学も亦全学封鎖という未曾有の混乱期を迎えたのでありましたが、先生はあくまで学生にゆるがぬ愛情と信頼を注ぎつゝも、大学の秩序を守り通し、戦争後の荒廃した大学を學問研究の府として蘇生させられました。又当時の世論から極めて難重であった京大

研究用原子炉の立地の決定にこぎつけ又東南アジア研究センターを創設されるなど、大学の復興とともに国際交流にも大きい力を注がれました。しかし学問研究至上を信し疑いませんでした。当時の私共教員はこの様に研究以外のことでも忙しくしていられる先生を少しも贅美していた訳ではありませんでした。何處までも燃えるような情熱をえられて参りました。しかし先生の美しくも偉大な天成のお人柄は先生に接する何人をも魅了し去り殺伐たる戦後の時代的雰囲気もあつて先生を研究室人の人としては置きませんでした。

昨年十月十日医道顕彰会の総会で先生は「研究生活の思い出」と題しお話しをされ自ら苦心して作られたご自身の人生曲線の中で先生は幼少から今日までの人生の歩みを四期に分けていらっしゃります。

新潟大学での第二期はこれぞ先生の最も充実した自然科学研究、教育に傾注された時代でありまして、昭和五十六年(日本教材文化研究所)新学社発行の平沢興博士論文集全七巻二四二編の論文三〇〇〇頁余の中核を

書いていられるのであります。その後の第三期京都大学のご生

活はすでに多くは管理職にあらため多くの人と交われ高く広い立場から教育に当られると共に広

い、その卷末に先生は私の人生の最高の目標は研究であつたと

書いていられるのであります。その後の第三期京都大学のご生

活はすでに多くは管理職にあらため多くの人と交わ�、立場から教育に当られると共に広

い、その卷末に先生は私の人生の最高の目標は研究であつたと

書いていられるのであります。その後の第三期京都大学のご生

活はすでに多くは管理職にあらため多くの人と交わ�、立場から教育に当られると共に広

い、その卷末に先生は私の人生の最高の目標は研究であつたと

書いていられるのであります。その後の第三期京都大学のご生

活はすでに多くは管理職にあらため多くの人と交わ�、立場から教育に当られると共に広

号外
よりだかた村

く人間社会の実際に参入されました。御退官後、数次にわたり重篤な病気を通じ更に深く人間と人生を考えられ、今日に至ったのであります。

ご一生を眺めますと初め哲学的宗教的な人間脳の科学研究、そして科学的研究の修練を経られた後、再び人生に対する哲学的宗教的な晩年を迎えた訳であります。

この間先生にとって貫して変わぬ目標は生命の探求でありました。先生の言つていられた一筋の道、それを私共は科学的研究のみを考えていたのに對し先生九十年の御一生はもつと高く広く深く人間と人生の真実、生命の尊嚴を求めてやまぬ一筋の道であります。先生はよく宇宙三十数億年の生命、四兆の細胞から成る人間の生命のお話をされます。

十五・六世紀科学革命をおこしたコベルニチスガリレオ、ケラーニュートンが宇宙の神祕を仰ぎ神のみ業を人間の理性で解明すべく科学を生みつゝも終始信仰に徹したことを思い出す

あります。

先生に教わりました脳の学問は人間は人間を浴びて人間に成ることを教えています。先生を作り先生を守り先生を磨いたのは先生の遺伝と自身の御努力も勿論ありますが親鸞上人ゆかりの味方村の素朴で温い人達、高校の先生方、大学の同僚・研究を共にした人達、そして先生が逢われた多くの社会の人々誠に多くの人々、そして何よりも大きいのは先生と生活を共にされた御家族の皆様、とくにさきに逝かれた奥様であります。

先生はこれら多くの人達からつきぬ愛情と賛美をあびつゝ先生も亦これらの人達を心から愛し誠意をつくされ玉の様なお人柄、人間の宝へとみがかれてゆかれました。今日先生の遺影を埋める花の波はその人達の限りない愛情を示しています。

その様な愛情につゝまれて先生はいつも新鮮な魂を燃しつゝ燃しつゝけつゝ、その一生を終えられました。

只今先生のお写真は「有難う本当に有難いことだ」と言つて

あります。

思ひますと四十年前初めて京大解剖学教室でお目にかかりましてから過日近親の皆様と共にお骨をひらうことの出来ますまで常に先生を仰ぎ見つゝ人生を送ることが出来ましたことは私

の一生にとりまして誠に光榮であり有難いことでありました。門下の氣持、先生何卒安らかにお眠り下さい。

平成元年七月三日

年号・西暦・年令
略歴

明治
三三・一九〇〇・〇
十月五日誕生、父平太郎、母チノの六男新潟県西蒲原郡味方村大字山王新田九番地。

四〇・一九〇六・六
四月味方村役場からの一年早い指令によ

り七穂小学校へ入学。

三九・一九〇六・七
三月指命の誤りが発見され留年となるべきところを、祖母ひろの交渉によりようやく二年に進級。

四一・一九〇八・八
八月父より村医者になれと言わせ賛成する。

四二・一九〇九・九
六月新潟県書道展で特賞受賞。

四三・一九一〇・一〇
四月担任教師の熱愛による過度の激励が面白くなく、新潟市鏡淵小学校五年に転校、その後すぐ本山久平先生から習字で激賞され大いに元気づく。

四四・一九一一・一一
三月大阪宝文館発行の中学校受験準備書を京都の父より送られ勉強する。

号外
よりだかた村

弔

辭

日本学士院長 脇村義太郎

日本学士院会員平澤興博士には、去る六月十七日早晩俄に他界されました。六月十二日には本院で挙行されました本年度の恩賜賞ならびに日本学士院賞授賞式に、また、翌十三日の六月例会にはお元気なお姿をお見

せくださいましたのに、僅かその四日後にかようなお別れとなろうとは誠に痛嘆哀惜の念に堪えません。

ここに私は、博士の卓越した学問的業績と長く学界のために尽くされたご努力とに對し深い尊敬と感謝の念を捧げます。

博士は、解剖学の研究とその指導とに大きな足跡を遺されました。その詳細に触ることを控えますが、主として形態学的立場から錐体外路系の系統的分類を行い、その中枢は大脳皮質から脊髄に至る中枢神経系の広範囲に及ぶことを初めて明らかにしました。

昭和55年3月21日 来村の折、子供たちと

▲昭和55年3月21日 来村の折、子供たちと
日本学士院会員平澤興博士には、去る六月十七日早晩俄に他界されました。六月十二日には本院で挙行されました本年度の恩賜賞ならびに日本学士院賞授賞式に、また、翌十三日の六月例会にはお元気なお姿をお見せくださいましたのに、僅かその四日後にかようなお別れとなろうとは誠に痛嘆哀惜の念に堪えません。

ここに私は、博士の卓越した学問的業績と長く学界のために尽くされたご努力とに對し深い尊敬と感謝の念を捧げます。

博士は、解剖学の研究とその指導とに大きな足跡を遺されました。その詳細に触ることを控えますが、主として形態学的立場から錐体外路系の系統的分類を行い、その中枢は大脳皮質から脊髄に至る中枢神経系の広範囲に及ぶことを初めて明らかにしました。

博士は、医者として研究者として深い人間的自覚を持ち、心

を初めて明らかにしました。

昭和55年3月21日 来村の折、子供たちと

日本学士院会員平澤興博士には、去る六月十七日早晩俄に他界されました。六月十二日には本院で挙行されました本年度の恩賜賞ならびに日本学士院賞授賞式に、また、翌十三日の六月例会にはお元気なお姿をお見せくださいましたのに、僅かその四日後にかようなお別れとなろうとは誠に痛嘆哀惜の念に堪えません。

ここに私は、博士の卓越した学問的業績と長く学界のために尽くされたご努力とに對し深い尊敬と感謝の念を捧げます。

博士は、解剖学の研究とその指導とに大きな足跡を遺されました。その詳細に触ることを控えますが、主として形態学的立場から錐体外路系の系統的分類を行い、その中枢は大脳皮質から脊髄に至る中枢神経系の広範囲に及ぶことを初めて明らかにしました。

博士は、医者として研究者として深い人間的自覚を持ち、心

を初めて明らかにしました。

故平澤興先生の偉大なるご功績

名譽村民

来る大阪花の博覧会における生命の塔は若い青年達と共に燃された先生の生命の塔であります。世界一〇〇万の少年の名がさまるときいています。

今や先生は逝かれましたが先生の生命・情熱はこれら少年・若者、多くの人達の胸に長く／＼燃えつゝけることあります。

思ひますと四十年前初めて京大解剖学教室でお目にかかりましてから過日近親の皆様と共にお骨をひらうことの出来ますまで常に先生を仰ぎ見つゝ人生を送ることが出来ましたことは私

の一生にとりまして誠に光榮であります。門下の氣持、先生何卒安らかにお眠り下さい。

平成元年七月三日

年号・西暦・年令
略歴

明治
三三・一九〇〇・〇
十月五日誕生、父平太郎、母チノの六男新潟県西蒲原郡味方村大字山王新田九番地。四〇・一九〇六・六
四月味方村役場からの一年早い指令によ四一・一九〇八・八
三月指命の誤りが発見され留年となるべきところを、祖母ひろの交渉によりようやく二年に進級。四二・一九〇九・九
八月父より村医者になれと言わせ賛成する。四三・一九一〇・一〇
六月新潟県書道展で特賞受賞。四四・一九一一・一一
四月担任教師の熱愛による過度の激励が面白くなく、新潟市鏡淵小学校五年に転校、その後すぐ本山久平先生から習字で激賞され大いに元気づく。四一・一九一一年
三月大阪宝文館発行の中学校受験準備書を京都の父より送られ勉強する。四二・一九一二・一二
六月新潟県書道展で特賞受賞。四三・一九一三年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四四・一九一四年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九一五年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四六・一九一六年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九一七年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九一八年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九一九年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二〇年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二一年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二二年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二三年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二四年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二五年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二六年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二七年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二八年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九二九年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三〇年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三一年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三二年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三三年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三四年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三五年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三六年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三七年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三八年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九三九年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四〇年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四一年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四二年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四三年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四四年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四五年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四六年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四七年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四八年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九四九年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九五〇年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九五一年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九五二年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九五三年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九五四年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。四五・一九五五年
四月京都府立第二中学校へ転校。慈父のほどんど一年間、毎日カービ先生の散歩に同伴し、英会話が上達する。

から社会に奉仕したいという信念のもとに忠実な歩みを続けられたかたでした。景仰私淑されたシユバイツァー博士の「生命への畏敬と奉仕」こそは今後とも全人類にとっての至針であると考え、わけても直接生命を対象とする医者にとってはそうあるべきことを自重自戒されるとともに機会あるごとに後進に首

弔辭

西島安則

平澤興先生の御靈の前に額つき、御遺影に先生の御光顔を捧げますと学者として教育者として、そして全き人間としての生きる道を自らの生き方によつてお示し下さいました偉大な先生を失つた大きな虚ろに、限りない哀惜の情のあふれるのを禁じ得ません。

ここに謹んで平澤興先生の御遺徳を偲び深い感謝の心を捧げ、御遺志を継ぐ事を誓い御冥福をお祈り申し上げます。

立九十二周年式典の日でした。いつもの様に、先生の温顔に接しお元気なお聲をお聴きする事を楽しみに致しておりましたのに、その早朝突然の御逝去の報せは、私共の胸を貫きました。平澤興先生が新潟医科大学より母校京都帝国大学の教授に就任され、医学部解剖学第一講座を担当されたのは昭和二十一年（一九四六）七月先生四十五歳のときであります。神経解剖学の画期的な御業績により、

利三郎先生は「この大学という事業をもつて、その目的として、社会は真理の探求という神聖なる目的をもつて、この目的の達成に対して情熱をもつて固まる人々によって形成されている。真理の探求という貴い目的のためにいかなる苦しみをも共にしようという同志意識に燃える人々の形作る共同社会である」と述べておられますかが、当時の大学の苦衷が滲み出でています。

一三·一九

二四·24

十二日
十一日
十月
六月
七月
六月
五月
三月
二月
一月
十二月

月約束に
たもの、
る。
七月自活
教鞭をと
西遊寺の
京都帝国
京都帝国
一となり、
結核性痔

より、父
、毅然た
る。

都府立第二中学校
学資を送らず。困
る父の態度に感服
美代死去。
部卒業。
部助手（解剖学教
長沼氏）と結婚。
を受ける。
部助教授となる。
義（局部解剖学）

九·一九二〇·20

三月第四高等学校卒業

三月第四高等学校卒業

外

あじかた村だより

(7) 平成元年8月10日発行

二月龍川幸辰総長の後を承けて、
當時医学部長でありました、平
澤興先生が第十六代総長に御
就任になりました。戦後十余年
を経て大学はいよいよ教育研究
の基盤を充実すべき時機を迎え
ました。昭和三十五年（一九六
〇）に医学部薬学科を基礎とし
て薬学部が新設されました。

昭和三十七年（一九六二）に
は、産業経済の諸問題の理論的
実証的な研究を関連諸科学の総
合により進めることを目的とし
て経済研究所が設置されました。

昭和三十八年（一九六三）に
は数理科学の分野における新しい
方法や理論の開発のため自然科

学、社会科学の領域にわたる全
国の研究者の共同研究の場とし
て数理解析研究所が創設され、
これはまた国際学術交流の重要
な拠点の一つとなりました。
この年にはまた、昭和三十年
代のはじめより懸案の原子炉実
験所が全国共同利用施設として
設置されました。昭和三十四年
(一九五九) 春に平澤興総長
提唱のもとに東南アジア研究会
が組織されましたが、これが学
内措置によつて東南アジア研究
センターとして発足しましたの
は、昭和三十八年(一九六三)
であります。

先生はこの発足に当つて「東
南アジア諸国民に対する深い愛
情と理解を欠いてはこの研究は
成立致しません」と述べられ、
学問の総合の柱としての人間愛
を強調しておられます。この研
究センターは昭和四十年(一
九六五)になつて正式に発足さ
れました。

学問の総合、大学間の共同研
究、眞の国際学術交流の拠点形
成など教育研究体制の充実に力
を尽されましたが、この拡充期
において平澤興先生の一貫し
た京都大学の伝統的学風の涵養
と個性的で最高の学問水準に基



▲昭和55年3月21日 来村の折、揮毫中の先生

二·一九二七·27
三·一九二八·28
四·一九二九·29
五·一九三〇·30
六·一九三一·31
七·一九三二·32

十一月スイス、ドイツへの留学発令。
一月留学に出発する。

三月スイス国チューリッヒ大学脳解剖学研究所に入所、モナコフ先生及びミンコウスキ先生の指導を受ける。

三月リットマイヤー家から招待を受け、以後心のこもった待遇を受ける。

四月シュタイン家の招待され、以後実子の「とき愛情を受ける。

四月ミュンヘンのドイツ精神神経学研究所へ入所、シユピールマイヤー先生の指導を受ける。

一月ヨーロッパからアメリカ合衆国へ移る。

一月～四月アメリカ合衆国を観察。主な大學、研究所を訪れる。

四月日本へ帰国。

五月新潟医科大学教授となる。

八月日本人腕神経叢の研究で医学博士となる。

十月脳実習の時、右側大脳半球運動領にボレンツエフアリーのある事例に遭遇し、非常な興味を覚え、以後皮質運動系研究の端緒となる。

三月『大脳作用に関する諸説の歴史的考察並びに大脳局在問題の現況概観』の綜説に着手（小池上春芳と共著）

八月北陸医学会（金沢）にて「錐体外路運動系統について」特別講演。

四月平澤解剖学教室を分離、独立する。

てお前一人ではない。私は何時もお前の側にいる。手を組んで一緒に喜ばう」と先生のお声が聞こえて来る様です。

西本願寺の前、境内地の寺である一行寺に生まれました私が、聖人が深くて広いまことの信心を開かれましたご流在の地、越後の方村に生れられました先生ときつてもきれない強いご縁で結ばれましたこと、そしてご葬儀の導師を勤めさせて頂きましたこと、何と仏縁の不思議なことあります。

十八日のお通夜の一夜を、八十九年のこの世に肉体を留められた最後の夜を、ご本山の親鸞聖人のご真影様の前で過され、翌朝の鐘の音を聞かれて、ご本山の前より、東山の火葬場へと旅立られました先生。ご本山の為に永年にご尽力されましたご功績により、ご門主様自ら書かれましたご歎筆の院号法名「光顔院釋興法」を頂かれました。誠に先生のお徳のしからしむるところであります。

院号の「光顔院」の光顔とは、親鸞聖人が真実のお経は大無量寿聖である。沢山のお経の中の

説き続けて下さいました。ニコニコと笑われるお顔は、単に顔付きだけで微笑していられるのではない。腹底からの喜びが、自然に光り輝くお顔となつてお話しになつておられたのであります。正しく光顔院こそ先生を象徴する唯一無二の御名だと存じます。

又「興法」のご法名は、大経以は、道教を光闇し、群萌を撫い、恵むに真実の利を以てせんと欲してなり」

お釈迦様がこの世に生れ出られましたのは、「興法利生」の為、真実の道を教え、真実の利益をあたえて、一切の人々を救わんがためであると言う意味であります。

平澤先生がこの世に生れられたのは、真実の法を求める、唯一筋に真実の道を歩み続けられた一生であります。唯自己の専問の学問、医学のみならず、教育、宗教、芸術、工芸、体育、とあらゆる文化の分野に於て、その人、一人一人の限りなき可

能性を引出し、生きることの素晴しさに心から感謝し、まことの人間たらんとする願いに燃えながら、人生と歩むことを教え続けて下さいました。

生きるとは、南無阿弥陀仏。これは、私のお寺の記念法要に一昨年、作られたお歌であります。

天地、自然を拝み、人を拝み、

さうに自分自身の尊さを拝みつゝ、燃えつけた情熱のまゝ、生も死も、善も悪も、この世も、あの世も一つにとけ合つてしまつたご心境で、大自然の命となり、南無阿弥陀仏となつて、私達に呼びかけ、お導き下さるのあります。

常に光顔巍々と輝いておられる法身の先生を拝みつゝ、先生を偲ばせて頂いております。

合掌

遺徳をたたえて

村議会議長 堤 德

—

三月財團法人産業経済研究協会理事となる。

三月京都イングリッシュセンター・名譽院長となる。

四月財團法人医学研究振興財團医学振興研究審査委員となる。

四月日本竹を守る会名譽会長となる。

六月関西味方会長高橋初太郎、平澤興博士の「和」の記念碑を味方村樂友莊庭に建立の折記念講演。

十一月滋賀医科大学参与となる。

四月日本医師会より医学教育特別功労賞受賞。

五月日本芸術短期大学学長となる。

六月京都芸術短期大学名譽学長となる。

四月中宮寺妙光会会長となる。

四月財團法人環境科学総合研究所名譽所長となる。

六月国際ロー・タリーのロー・タリー財團秀奉仕賞受賞。

十月財團法人環境科学総合研究所名譽所長となる。

十一月関西新潟県人会名譽会長となる。

四月淨土真宗本願寺派宗法調査会委員となる。

六月京都芸術短期大学名譽学長となる。

十二月「人間—その無限の可能性」を、平澤先生講演録刊行会により、新潟日報事業社から刊行。

三月味方村公民館竣工。平澤博士記念講演。（君新潟県知事も参加）

十月財團法人高松宮妃癌研究基金審査委員長となる。

生前、あの温顔そのままのお姿に合掌させていただき、人一倍古里に思いを寄せておられた先生に、感慨を新たにさせられたのであった。

その際、寢主の金沢大学教育学部教授で、ご長男の平澤一（はじめ）氏から、「やがて納棺の時間ですから、一緒にどうぞ」といわれ、ご親戚の平澤政七男

さんたちの後から、村長とともに

五月・一九七八・78

五四・一九七七・77

五三・一九七八・77

五一・一九七七・76

四九・一九七四・74

五〇・一九七五・75

五一・一九七六・75

四八・一九七三・73

十一月京都府立第二中学校同窓会会長となる。

四月財團法人語学教育振興会評議員となる。

五月住友生命保険株式会社監査役となる。

六月財團法人ライフル・プランニングセンターリー理事となる。

七月財團法人落柿舎保存会幹事となる。

八月随想集『見たまま・感じたまま』を法藏館から刊行。

九月大阪聖徳学園理事となる。

十月直腸癌の手術を受ける。

十一月日本家庭教育研究会総裁となる。

十二月財團法人日本医学文化保存会監査役となる。

一月株式会社新学社総裁となる。

三月直腸癌の手術を受ける。

四月財團法人システム科学研究所名譽会長となる。

五月財團法人語学教育振興会評議員となる。

六月財團法人ライフル・プランニングセンターリー理事となる。

七月財團法人落柿舎保存会幹事となる。

八月随想集『見たまま・感じたまま』を法藏館から刊行。

九月大阪聖徳学園理事となる。

十月直腸癌の手術を受ける。

十一月京都府立第二中学校同窓会会長となる。

四月財團法人語学教育振興会評議員となる。

五月住友生命保険株式会社監査役となる。

六月財團法人ライフル・プランニングセンターリー理事となる。

七月財團法人落柿

も焼香をさせていただくことができた。
納棺にあたり、一行寺住職、
那須信孝師は幾度となく絶句し、
泣きながら悲痛なお話をされた
が、そのときれとぎれの言葉のこと
を述べられたが、それが今も私
の耳にこびりついている。

その後、先生のご遺体は本願
寺会館に安置され、午後七時か
らお通夜、翌十九日午後一時か
らの密葬に参列、先生のまわり
に生花を捧げ、最後のお別れを
した。

村からも、佐野孝先生ご家族、
木村明先生、広川彰恩師が駆け
付けられ、大先生との別れを惜
しんでおられた。

六月二十七日開会の平成元年味方村第二回定例会は、名譽会員頭、議場に先生の遺影を飾り、村長以下全員中央に進みでて、黙禱をささげ、つつしんで哀悼の意を表した。

七月三日の本葬には、村長、橋本教育長、関谷中学校長、藤

本小学校長と共に上洛、再度平澤邸を弔問し、午後一時からの葬儀、同二時からの告別式に参列した。

会場の本願寺会館では、団体別にそれぞれの受付が用意され、いたが、その中で「ノートルダム大学関係」の札が目に止

る。また、仏教関係の方も多

く数会葬されており、先に書いたように、先生は医学、科学だけ

でなく、宗教、芸術に対しても深い理解を示されており、真に「先生」と仰ぐにふさわしい、大きな人だったことがわかる。

葬儀は笙、箏、横笛を、五人の僧侶が奏てる雅楽の先導によつて、諸僧、続いて導師が入

場。本願寺から「達書」、同

代表の焼香があつて、岡本道雄葬儀委員長、脇村義太郎日本学士院院長、西島安則京都大学総長の弔辞とつづき、最後に小学

校六年生のお孫さんが進みでて、先生を僕のおじいちゃんまと慕い、嗚咽しながら、一生けんめいに涙を押さえ、お別れの言葉を読み上げたが、その可憐さに、会葬者の心を強く打つものがあった。

やがて読經がはじまり、約五百人の会葬者が順に焼香をして、岡本葬儀委員長のあいさつがあつて葬儀は終了した。

私は、先生との別離の情やみがたく、そのまま席に残つて、

五九・一九八四・84

五六・一九八一・81

五月『平澤興博士論文集』を平澤興博士論文集刊行会により、日本教材文化研究財団・新学社から刊行。

三月京都府文化賞特別功労賞受賞。

六月彰徳基金として一千五百万円を味方村に寄付。

八月来村、小・中学校に立寄られる。体育馆で講話。

三月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

十一月味方小学校創立十周年に記念講話。

十一月白根高等学校に記念講話。

五月『夢と人生』P.H.P研究所より刊行。

五月『医学の足跡』誠文堂新光社より刊行。

九月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

五月十五日七穂忠魂碑に参拝。最後の来村となる。

六月『さあ、がんばろう』法藏館より刊行。

六月十七日逝去。(京都市京都病院にて)

平成元・一九八九・89

五六・一九八六・86

六二・一九八七・87

五六・一九八四・84

五六・一九八一・81

九月『平澤興博士論文集』を平澤興博士論文集刊行会により、日本教材文化研究財団・新学社から刊行。

三月京都府文化賞特別功労賞受賞。

六月彰徳基金として一千五百万円を味方村に寄付。

八月来村、小・中学校に立寄られる。体育馆で講話。

三月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

十一月味方小学校創立十周年に記念講話。

十一月白根高等学校に記念講話。

五月『夢と人生』P.H.P研究所より刊行。

五月『医学の足跡』誠文堂新光社より刊行。

九月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

五月十五日七穂忠魂碑に参拝。最後の来村となる。

六月『さあ、がんばろう』法藏館より刊行。

六月十七日逝去。(京都市京都病院にて)

平成元・一九八九・89

五六・一九八六・86

六二・一九八七・87

五六・一九八四・84

五六・一九八一・81

九月『平澤興博士論文集』を平澤興博士論文集刊行会により、日本教材文化研究財団・新学社から刊行。

三月京都府文化賞特別功労賞受賞。

六月彰徳基金として一千五百万円を味方村に寄付。

八月来村、小・中学校に立寄られる。体育馆で講話。

三月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

十一月味方小学校創立十周年に記念講話。

十一月白根高等学校に記念講話。

五月『夢と人生』P.H.P研究所より刊行。

五月『医学の足跡』誠文堂新光社より刊行。

九月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

五月十五日七穂忠魂碑に参拝。最後の来村となる。

六月『さあ、がんばろう』法藏館より刊行。

六月十七日逝去。(京都市京都病院にて)

平成元・一九八九・89

五六・一九八六・86

六二・一九八七・87

五六・一九八四・84

五六・一九八一・81

九月『平澤興博士論文集』を平澤興博士論文集刊行会により、日本教材文化研究財団・新学社から刊行。

三月京都府文化賞特別功労賞受賞。

六月彰徳基金として一千五百万円を味方村に寄付。

八月来村、小・中学校に立寄られる。体育馆で講話。

三月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

十一月味方小学校創立十周年に記念講話。

十一月白根高等学校に記念講話。

五月『夢と人生』P.H.P研究所より刊行。

五月『医学の足跡』誠文堂新光社より刊行。

九月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

五月十五日七穂忠魂碑に参拝。最後の来村となる。

六月『さあ、がんばろう』法藏館より刊行。

六月十七日逝去。(京都市京都病院にて)

平成元・一九八九・89

五六・一九八六・86

六二・一九八七・87

五六・一九八四・84

五六・一九八一・81

九月『平澤興博士論文集』を平澤興博士論文集刊行会により、日本教材文化研究財団・新学社から刊行。

三月京都府文化賞特別功労賞受賞。

六月彰徳基金として一千五百万円を味方村に寄付。

八月来村、小・中学校に立寄られる。体育馆で講話。

三月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

十一月味方小学校創立十周年に記念講話。

十一月白根高等学校に記念講話。

五月『夢と人生』P.H.P研究所より刊行。

五月『医学の足跡』誠文堂新光社より刊行。

九月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

五月十五日七穂忠魂碑に参拝。最後の来村となる。

六月『さあ、がんばろう』法藏館より刊行。

六月十七日逝去。(京都市京都病院にて)

平成元・一九八九・89

五六・一九八六・86

六二・一九八七・87

五六・一九八四・84

五六・一九八一・81

九月『平澤興博士論文集』を平澤興博士論文集刊行会により、日本教材文化研究財団・新学社から刊行。

三月京都府文化賞特別功労賞受賞。

六月彰徳基金として一千五百万円を味方村に寄付。

八月来村、小・中学校に立寄られる。体育馆で講話。

三月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

十一月味方小学校創立十周年に記念講話。

十一月白根高等学校に記念講話。

五月『夢と人生』P.H.P研究所より刊行。

五月『医学の足跡』誠文堂新光社より刊行。

九月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

五月十五日七穂忠魂碑に参拝。最後の来村となる。

六月『さあ、がんばろう』法藏館より刊行。

六月十七日逝去。(京都市京都病院にて)

平成元・一九八九・89

五六・一九八六・86

六二・一九八七・87

五六・一九八四・84

五六・一九八一・81

九月『平澤興博士論文集』を平澤興博士論文集刊行会により、日本教材文化研究財団・新学社から刊行。

三月京都府文化賞特別功労賞受賞。

六月彰徳基金として一千五百万円を味方村に寄付。

八月来村、小・中学校に立寄られる。体育馆で講話。

三月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

十一月味方小学校創立十周年に記念講話。

十一月白根高等学校に記念講話。

五月『夢と人生』P.H.P研究所より刊行。

五月『医学の足跡』誠文堂新光社より刊行。

九月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

五月十五日七穂忠魂碑に参拝。最後の来村となる。

六月『さあ、がんばろう』法藏館より刊行。

六月十七日逝去。(京都市京都病院にて)

平成元・一九八九・89

五六・一九八六・86

六二・一九八七・87

五六・一九八四・84

五六・一九八一・81

九月『平澤興博士論文集』を平澤興博士論文集刊行会により、日本教材文化研究財団・新学社から刊行。

三月京都府文化賞特別功労賞受賞。

六月彰徳基金として一千五百万円を味方村に寄付。

八月来村、小・中学校に立寄られる。体育馆で講話。

三月味方中学校創立四十周年記念式に記念講話。

十一月味方小学校創立十周年に記念講話。

十一

▼昭和58年8月1日 来村の折には養豚団地を訪ねられる



味方中学校創立40周年

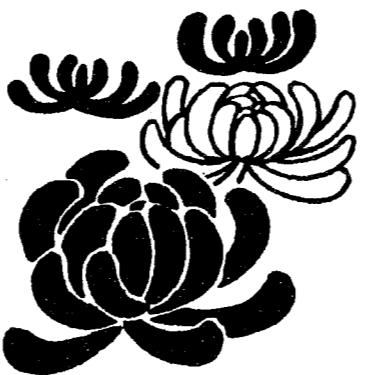


昭和62年9月21日 中学校40周年記念で



昭和58年8月1日

来村の折、聴衆と和をつくられて



として講演を聞きましたが、これも忘れない思い出であり、あの時は、やはり行つてよかつたと今も思つております。

昭和四十三年、曾我量深先生と共に味方村名譽村民推戴式の折の「研究生活の思い出」の講演も聞きました。

ついで、昭和四十五年、歟一等瑞宝章の栄に輝かれた時の祝賀会が、笛川邸で開かれ、当時の巨知事を迎えてのお祝いにも私は出席、大きな感銘を受けたが、これも同郷人でなければ、お会いすることの出来ない機会でありました。

こうして、お会いさせて頂く機会を重ねつつ、私は益々平澤先生の誠実な且つ大きなお人柄に魅せられるように傾倒してまいりました。

昭和六十一年九月二十八日、新潟県医師会総会で特別にご挨拶頂いたことがありました。その時、「……私は講義の前に、時々私の尊敬する偉人の話をしましたが、あれは学生諸君に説教をしたのではないのであります。平澤よ！お前がしつかりしないで……人間として本物にな

らないでどうして教育ができるようか、ということで、私自身に言つている言葉を、人生の範とし、学生に言つたのであります。……」(後略)と申しておられましたが、先生は、解剖学の教授であり、教育者である前に、まず自分自身が真の人間でなければならないというご信念であり、またそれを貫かれた人生を歩まれた方であると思います。

世の中には、立派なことを言うが、自分の行動はどうかと問われるとはまれている人間像を見ることがあります。先生はまさに言行一致であられたと

思います。

そして、関谷校長先生の配意で私が村の中学生全員にお話ししたのが一月二十六日(昭和六十三年)であります。皆さ

ん、真剣にお聞き頂いたことを感謝しております。

今となりましては、遠くみまかられた先生から、もう直接のお教えを受けることが出来なくなりましたが、これからは、先生のご著書を改めて読みかえしつつ、今まで吸収し得なかつたものを少しでも学ばせて頂きましたが、これからは、先生の著書を改めて読みかえし

いと思っております。

七月三日の京都・本願寺会館の告別式にも薄田村長さん等と



▲昭和59年11月18日 東京・関西味方会を迎えての歓迎会で(笛川邸)

共にあらためてお参りしましたが、天皇陛下からご弔意の伝達がありましたことは、故平澤興く名譽なことありました。また味方村ならびに村民一同にとりましても、この上ない名誉

心からご冥福をお祈りすると共に、これからは天上よりいつも私共をお導き下さるんことをお願い申し上げます。

らぬいでどうして教育ができるよ

うか、ということで、私自身に言つている言葉を、人生の範とし、学生に言つたのであります。……

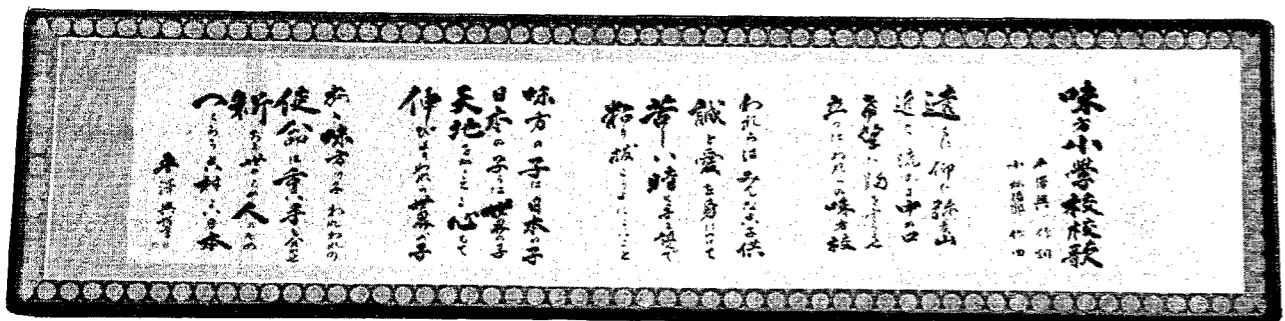
「中学では『人生曲線』について話まで出来なかつたな」(前日の新大医学部有王館では、先生のご一生を圖にまとめられた「人生曲線」の年譜にそつて「我人生を通して考える」と題した講演をされたので、「お許し」と申されたので、「お許しがあれば、私がお話をさせて頂いてよろしいですが……」と申したところ、うなずかれお許し下さいました。

そして、関谷校長先生の配意で私が村の中学生全員にお話ししたのが一月二十六日(昭和六十三年)であります。皆さ

ん、真剣にお聞き頂いたことを感謝しております。



▲旧七穂小学校校歌（公民館七穂分館）



▲味方小学校校歌（小学校ステージ脇）



▲先公後私……（味方村公民館）



▲昭和58年8月1日 来村の折、村民体育館で聴衆の声に耳を傾けられる



▲昭和58年8月1日来村の折、村民体育館で

団体や一般の方々の会葬者は式場の中から歩道にまで長蛇の列をなす有様で、平澤先生のご遺徳が、いかに偉大であったことかと偲ばされました。

去る四月八、九日平澤先生にお会いし、曾我先生と平澤先生に記念館(仮称)を篠川邸の近くに建立したいとご相談に参上し

ました際は、「地方自治の中に、地方文化を育て発展させるということは極めて重要なことです。決して派手なことはするな、長く続くようなことにしてほしい。あとはおまかせします。できるだけの協力はいたします。」

た。その後曾我信雄先生邸を訪問し、今は亡き曾我量深先生の佛前にお参りさせていただき、記念館建立のことについてお話し申し上げ、さらに去る六月三日、曾我信雄先生からはじめて味方村をご訪問いたしました。

束をいただき、私といたしましては、記念館を平澤先生のご存命中に完成したいと念願し、文化庁を訪れて陳情をいたし、準備を進めていたところでありました。誠に残念至極になりました。誠に残念至極に存じます。この上は、村委会、関係機関、村民各位のご理解とご協賛をいただき、できるだけ早い機会に記念館を建立するこ

とが先生への報恩の途のひとつでもあると存じます。

平澤先生は、郷里味方村を温

いお心で愛してくださいました。村からのお願いには、如何にご多忙中にもかかわらず、ご都合をつけていただき、村の行事にはご臨席を賜り、ご講演をしていただきました。小、中学校や

三保育園を訪れられ、またご講演の後、一般聴衆者の中にお入

りになり人の輪をつくられ、雑談の中にもお教えくださいされておられたことが、今も有難く忘れることができます。このことができました。

昭和五十八年六月、會議中であつた私に、先生から突然のお電話をいただき、「村の口座番号を聞かしてくれ」とお申し出になりました。滝沢収入役が口座番号をお知らせ申し上げたところ、幾許

り、滝沢収入役が口座番号を白根支店から入金の電話がありました。その後先生とご相談を重ね、「平澤彰徳基金」として村の条例を設け、その果実でひとり十万円以上で心の美しい人々

を表彰することになり、昨年度までに、個人五十三名と六団体

が既に表彰を受けられました。

先生は常に、

「役職につくことだけが偉いのではない、心の美しく、心豊かな人こそ大切にしなければならないのだ。老若男女を問わず、かくれている心の美しい人を掘り起こして表彰してほしい。」と力強くお教えを賜つております。



味方村名譽村民・平澤興先生が、六月十七日午前四時、京都大学附属病院で急性心不全の大晦日で急逝されました。

平澤先生は、三月三日から老人性不調のため京都大学附属病院に入院、幸いにもご恢復され、五月九日退院されました。方村名譽村民の称号をお受けになりました。

その後は次第に日常生活にも慣れて、再び以前にも勝る元気になりました。そこで安心ください。この度の入院では、また時を得て、残り少ない我が人生を通覧回想する機を得ましたが、いまだに自己についてさえ未知なるものの多さに驚き、いよいよ人生の不思議になりました。

その後は次第に日常生活にも慣れ、再び以前にも勝る元気になりました。

このような次第であります。

このような次第であります。このような次第であります。このような次第であります。

このような次第であります。

このような次第であります。

このような次第であります。

このような次第であります。

このような次第であります。

このような次第であります。

このような次第であります。

このような次第であります。

このような次第であります。

名譽村民 平澤興先生 志逝

平澤先生の死を悼む

んをはじめ関係者のみなさんにお知らせしたのであります。

村といしましては、議会、

教育委員会等と協議をし、私と

議会議長が平澤家の葬儀に参列

することとし、翌十八日早朝の

電車で京都に参りました。直ち

に左京区の平澤邸を弔問し、ご

生前そのままのお姿でご永眠さ

れでおられる先生の福よかなご

尊顔にお参りをさせていただき

ました。感無量で胸が一杯とな

り、悲しみの涙をおさえること

ができませんでした。

その後先生のご遺体は、西本

願寺会館にご安置され、午後七

時からお通夜、翌十九日午後一

時からは平澤家の密葬が、悲し

みの中、厳かに取り行なわれました。元京都大学総長岡本道雄

先生をはじめ、京都大学関係者、

新学社、宗教界、その他多くの

ができます。

その後先生の遺体は、西本

願寺会館にご安置され、午後七

時からは平澤家の密葬が、悲し

みの中、厳かに取り行なわれま

した。



▲6月19日、故平澤先生密葬のようす

した。味方村の続く限り、先生のお心を無にすることなく表彰を続けなければならないものと存します。

平澤先生の偉大な世界の医学者としてのご功績・教育者・宗教界・社会諸団体・その他言い尽くせぬ程の国家国民は勿論のこと、全人類の為めにご恩賜を賜り、私どもの心の父として教え導いていただきましたことに心から厚く御礼を申し上げます。大変有難うございました。

次に最近先生がおうたいになりました詩をご紹介いたします。

年たけて

いよいよ帰らん 古里や

いのちのものと

とわの自然へ

あなどうと

不可思議光の このいのち

生きなん今日も

拝んで燃えて

生されて

生くるや今日の このいのち
天地の恩 限りなき恩

一、御染筆院号
(御門主様直
筆) 光顔院
釋興法
一、御香
一、供物



▲心うるわしく、心たくましく、心おろかしく

<平澤彰徳基金による記念品>

終りに、師とも慈父とも仰ぎ
尊敬しある申し上げて参りま
であります。

した名譽村民・平澤興先生のお
心に、少しでも近づけるよつな
「心美しく、心豊かな村づくり」
に、村民各位とともに努力に努
め力を重ねて行くことをお誓い申
し上げたいと存じます。

先生のご冥福を心からお祈り
申し上げます。

村長

なお、葬儀に当り西本願寺か
ら弔慰状とともに目録が伝達さ
れました。

弔慰状は、平

澤先生が西本願寺に生前中のご
功績と、念佛者としての功德を褒め讃えられた内容のものであ
ります。

また目録は、

一、御染筆院号
(御門主様直
筆) 光顔院
釋興法
一、御香
一、供物

一、生花

であります。

伝達された方は、藤沢総務、
本山代表焼香は、渡辺宗務総長
他であったことをご報告いたし
ます。

あじかた村だより特集号
で、平澤先生の偉大なご功
績をお知らせすることにし
ています。

関西味方会総会 6月4日

▼お元気に講話をされた平澤先生でしたが……



6月4日、京都市内の松ヶ崎、
会館で、関西味方会総会が開催
され、村から助役が出席しまし
た。

総会は満88才になられました
平澤興先生をはじめ関西各地の
村出身者約23名、並びに東京味
方会からも出席され盛大に行な
われました。

今まで信じられない感じであ
ります。先生の生前の御功績を
た、え御冥福をお祈り申し上げ
ますと共に関西味方会の益々の
御繁栄を祈念申し上げます。

(助役)